

バリアフリー化を進める街づくりについて 福田 浩実 議員

問 4月に視覚障害者の方が踏切内で列車と接触し死亡するという痛ましい事故が発生しました。安全安心に歩いて暮らせる街を目指す上で、今後、踏切を含む道路、観光施設、公共施設及び学校等におけるバリアフリー化をどのように進めていくのかお聞きしたい。

答 国のガイドライン改定に伴い、障害者団体、鉄道事業者、国とも協議し、踏切道周辺の対策を積極的に進めます。さらに学校教育と連携して心のバリアフリー教育を推進し、支え合い助け合うことでバリアをなくすソフト面での取り組みを進めます。また観光面でもお城まつり期間にバリアフリーデーを設定し、郡山城天守台への登城をサポートする社会実験を実施したいと考えています。

予算編成過程の見える化について 関本 真樹 議員

問 市の予算には市民の皆さんのための事業の全てが盛り込まれています。関心を高めて、深く知ってもらうためにも積極的な情報の発信が望まれます。予算編成過程のうち、どの工程において見える化が図れそうか市の考えをお聞かせください。

答 予算編成過程の公表については課題もあるため、他市の実施状況について調査・研究してまいります。市としましては、市民の皆様は情報をわかりやすく伝えることが最も大切であると考えており、広報紙「つながり」等におきまして、よりわかりやすい予算広報に取り組んでいきます。

・他の質問項目：循環型社会の推進について

コロナ感染症対策と支援について 林 浩史 議員

問 コロナ感染症については、未だ収束が望めない中、落ち込んだ経済を復活させる為に企業、商業、学校、各家庭への支援が必要不可欠である。そこでその具体支援策についてお聞きいたします。

答 コロナ禍において、熱中症予防については「屋外での運動時にはマスクを外すこと」、各種がん検診受診率向上については、「各種検診は不要不急の外出ではないこと」等を広く周知するため情報発信に努めます。学校においては、今年度からスクールカウンセラーを市内全小中学校に配置し、相談の機会を拡充しております。学校行事についても感染防止対策を徹底し、コロナ禍以前の状況に近づくように検討してまいりたいと考えております。

上田市政21年について 金銅 成悟 議員

問 1項目①平端バイパス実現に向けて、上田市長は荒井知事と何回会ってどのような要望をしたか。②県との包括協定締結以後、上田市長は荒井知事と何回会ってどのような要望をしたか。③近鉄郡山駅舎移転について、上田市長は近鉄と何回会ってどのような話をしたか。2項目、近鉄郡山駅周辺地区まちづくりの事業に約6,500万円が支出されたが、駅前がどのように変わったか。

答 1項目、諸課題には市の行政組織として取り組んでおり、今後も担当部局との報告・連絡・相談を密に適切に対応してまいります。2項目、近鉄郡山駅前のまちづくりは基本計画に基づき段階的かつ丁寧に検討を進めているところです。今後は県と近鉄との三者協議を進めます。

①学童保育について ②3歳児健診について 村田俊太郎 議員

問 ①会計事務や人事管理等をサポートする体制をどのように考えているのか？
②眼の異常を早期発見するため、弱視を数秒で検知できる屈折検査機器の導入を要望しますが、お考えは？

答 ①保護者会の皆様には、負担がかからない形での参画を呼びかけ、現場に熟知した支援員の皆様には、新たな体制で従事いただき、市といたしましては、その運営をサポートしていくという三位一体となった実用性の高い運営体制の確立に向けて、体制整備に努めていきたいと考えております。
②適用できる補助金を活用しながら、早期の機器の購入に向けて準備を進めてまいりたいと考えております。

いじめ問題について 徳野 衆 議員

問 ①市内中学校で起きたいじめに関して、第三者委員会報告書では学校と市教育委員会の対応も問題指摘されていたことについて、今後の対応は？②いじめ対策として、他市では市が調査協力する方式や、24時間相談アプリの活用事例などがあるが、本市でも採用できないか。

答 ①いじめ問題対策委員会より提出された調査報告書には、学校及び教育委員会の対応の問題点及びその後の対応についての指摘があり、改善するよう取り組んでまいってきたところであります。②本市においても、様々な課題を考慮しつつ、いじめ等の問題の早期発見、早期対応に向け、先進的な取組を調査・研究してまいりたいと考えております。